

企業名： 山洋電気

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

この会社の企業理念は「私たち山洋電気グループは、すべての人々の幸せをめざし、人々とともに夢を実現します。」(pp1)とあるが、この企業理念が紹介されている付近のページでこれについて説明がなされているが、直接的な関連性・繋がりを感じられない。掲げている目標が曖昧なため、この会社の目指す将来像が明確に伝わらない。

しかし多方面の人々に対して良い会社であろうということは伝わってくる。それぞれの方面に対してのアプローチが示されており、そこは分かりやすい。ただ、多方面に向けようという意識が強すぎるゆえ企業理念が曖昧になってしまっているということも考えられるため、そこが仇となっているようにも感じられる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

製造資本、知的資本、財務資本、自然資本、人的資本、社会関係資本の6つの観点についての会社の考えと特徴が詳しくそしてグラフを用いながら分かりやすく示されており、様々な観点の資本の強化に努めていることが理解できた。グラフによってここ数年の資本強化に関する成長が見て取れ、また設備投資額などそれぞれの資本強化に関する具体的な数値も示されているため、会社全体として安全性が十分であることが伝わる。特に環境問題に対する配慮はよく示されており、環境問題の原因となるものを排出しやすい電気機器メーカーとしての強みであると感じた。

またこの会社は企業理念にもある通り多方面に向けた事業展開を行っている。何か一つの財に頼る事業形態は安全性において不安を感じてしまうが、多方面への展開がなされておりそれも安定しているということがイラストやグラフから見て取れるため、この会社の強みが読み取れ、競争優位性が理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

財務関係の数値のグラフやその他資本育成への取り組みの実績などから多方面への事業展開が安定しているということが読み取れるため、競争優位性は持続性があるともみて問題がないように思う。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

23,24 ページで、山洋電気の人的資本の重要性についての考え方や人的資本の育成についての取り組みが書かれている。育児や介護に対するサポートの整備は整っていることが読み取れ、また入社直後だけでなく昇進の際も研修が整っているということが実際の様子の写真とともに説明されており、自身の人的資本の価値向上は十分に見込む事ができる。また、多様性の尊重についても言及されており、差別なく能力を評価するよう努めているとしているため、より一層の人的資本の価値向上が見込める。

その一方で、会社の構造や具体的な人材育成についての説明はやや不足しているようにも感じられる。そのため実際は文面とは違うのではないかという疑念も生まれる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

グラフやイラストを様々なところで用いて説明しており、わかりやすかった。また強調したい数字や言葉などを効果的に大きくしており非常に見やすく伝わりやすい。一方で、本文の文字が小さいように感じた。余白やレイアウトで見やすくされているのに本文を読むのに読み手側の労力を要するため、詳しいことが伝わりづらい報告書になっているように思える。文字のサイズを今よりも大きくすべきだと思う。

そして報告書後半の役員紹介のページだが、役員の経歴を示すのは信頼などにつながるため良いと思うが、顔から何かが読み取れるわけではないため、顔写真は不要であると思う。

しかし全体を通して色の使い方やレイアウトは非常に分かりやすく、また専門用語ばかりで説明するという事も無いため、企業の見えざる資産がよく理解できる報告書であった。